



新撰理科書

理學士高島勝次郎編纂  
訂正

一上

図書 和図書 遡



福岡教育大学蔵書

T1A3

40

Ta54

理學士高島勝次郎編纂

# 新撰理科書

文學社

明治廿一年一月十七日  
文部省檢定濟小學校教科用書

廣

沼田順匡校正  
植田友次郎編纂

新撰地誌字引

全壹册

正價十二錢  
郵稅二錢

沼田順匡校正  
植田友次郎編纂

新撰理科書字引

全壹册

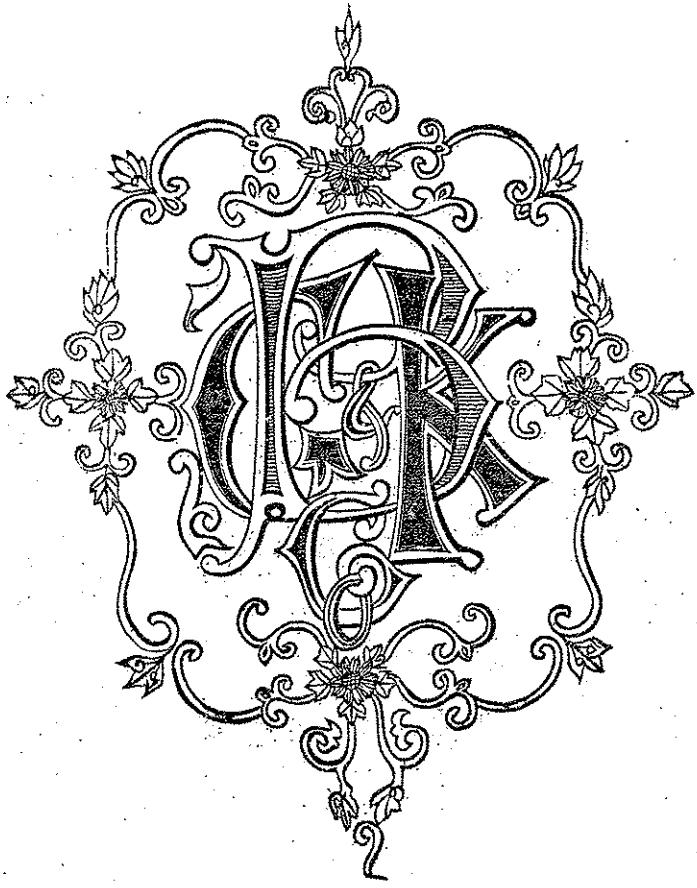
正價十二錢  
郵稅二錢

右發賣仕候間御注文奉願候

(御送金郵券代用、一割増三願上候)

東京本町四丁目  
各府縣

文學社  
書肆



目次

第一篇 總論

第一章 理科ノ定義及ビ其應用

天然物ト人造物トノ區別

第二章 天然ノ三界

動物界植物界礦物界

第二篇 礦物篇

第三章 固體液體氣體 結晶

金屬非金屬ノ別

第四章

有用ノ金屬

金銀鐵銅水銀鉛亞鉛錫真鍮唐銅

銅洋銀アルミ

第五章

有用ナル非金屬

第三篇 植物篇

第六章

根莖枝葉

第七章

花實種子

第八章

有花植物無花植物

第九章

飲食ニ須要ナル植物

第一

米麥

第二

豆類

第三

蔬菜甘蔗

第四

菓樹

第九章

衣服ニ須要ナル植物

草綿大麻

第十章

建築及ビ器具ニ須要ナル植物

山林

松杉檜櫻梅櫻桐

第十章

雜用ニ供スル植物

藍桑楮檀漆烟草

第十三章 有毒植物

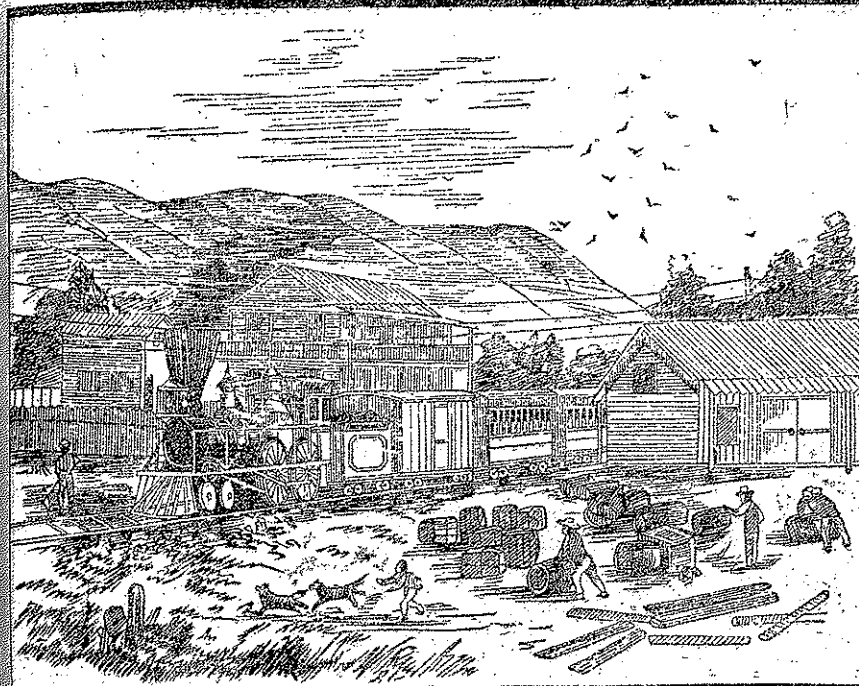
新撰理科書卷一

總論

第一章 理科ノ定義及ビ其應用

天然物ト人造物トノ區別

諸子ハ學校ノ休暇ナドニ外ニ出デ、遊ブコト  
 アラン此時野外ニ徘徊スレバ耳ニハ鳥雀ノ樹  
 ニ囀ヅリ流水ノ岩ニ激スルヲ聞キ目ニハ草木  
 ノ逕ニ茂リ石礫ノ地ニ散在スルヲ見又眼ヲ轉  
 ズレハ電柱ノ路傍ニ立テ鐵道ノ平地ニ互レル



ヲ目撃セシ其柱ニ懸レ  
ル銅線ハ是レ萬里ヲ隔  
ツル遠方ニモ即時ニ音  
信ヲ通ズベキモノニシ  
テ其鐵軌ノ上ニ駛スル  
汽車ハ是レ千百ノ旅客  
ト荷物トヲ載セテ其往  
來運輸ヲ便ニスルモノ  
ナリ凡ソ此等ノ事物ニ  
於テ其相異ナル所ハ如

何ナル處ニ存スルカ是レ諸子ノ宜シク深ク考  
究スベキ所ナリ

第一 諸子ノ遊歩スルコト、汽車ニ旅客及  
ビ荷物ヲ載スルコト、之ヲ運轉スルコト、  
ハ皆人ノ所爲ニ關スルガ故ニ、之ヲ人爲ノ事  
ト云フ

第二 草木ノ茂リ鳥雀ノ囀ヅリ水ノ流レ石  
礫ノ散在シ音響ノ傳フルコトハ、是レ人ノ爲  
ス所ニアラズシテ皆天然ニ出ヅルガ故ニ、之  
ヲ天然ノ現象ト云フ

第三 鐵道汽車電柱等ハ人ノ造リタルモノ  
 ナレドモ草木鳥獸石礫土水ノ類ハ皆天然ニ  
 存在スルモノナリ故ニ今世界ノ品物ヲ大別  
 シテ二類トナシ其人人工ニ係ルモノヲ稱シテ  
 人造物ト云ヒ其天然ニ存在スルモノヲ名ケ  
 テ天然物ト云フ

此ノ如ク人造物ハ人ノ造リ出セルモノナリト  
 雖モ其原ハ皆天然物ニシテ人ハ一モ創成スル  
 コト能ハザルナリ例ヘバ電柱ハ人造物ナレド  
 モ其原料タル樹木ハ天然物タリ又鐵道ハ人造

物ナレドモ其敷設ニ用フル鐵ハ天然物タルガ  
 如シ汽車ノ如キモ亦然リ之ニ用フル所ノ木材  
 銅鐵等ハ皆天然物ニシテ即チ之ヲ組ミ合ハセ  
 テ成レルニ外ナラズ其他機關車ニ用フル所ノ  
 水及ビ石炭ニ至ルマデ皆然ラザルハナシ但シ  
 天然物ノ性質ヲ知ルノ深淺ト之ヲ應用スルノ  
 巧拙トニ由リテ之ヲ構造セルノ後其效用ニ大  
 小ノ別アルノミ  
 實ニ理科ハ天然物ノ性質ト天然現象ノ變化ト  
 ヲ講究シテ之ヲ人事ニ應用セシムコトヲ務ムル

學ナリ故ニ理科ノ學習益進步スレバ天然物ノ性質ト天然現象ノ變化トヲ知ルコト益精密ニシテ之ヲ應用スルコトモ亦益周到ナルベク其應用周到ナレバ人生ノ幸福ヲ増進スルコト寔ニ無疆ナルベシ彼ノ歐米諸國ノ富強ナルハ主トシテ理科ノ學理ヲ應用スルノ盛ナルニ因ルノミ

本邦ハ昔ヨリ人民勇敢ニシテ死ヲ恐レズ身ヲ忘レテ忠義ヲ重ジ且ツ萬世一統ノ皇室ヲ奉戴シテ年所ヲ歷ルコト茲ニ二千五百四十七年其國體固ヨリ他ニ比類ナキノミナラズ人智モ亦頗ル理科ノ思想ニ深キガ如シ然レドモ唯惜ムベキハ古來東洋ニ孤立シテ偏ニ支那ノ文字書傳ノミヲ講ズルヲ以テ學問トナシ嘗テ理科ヲ精究シテ人事ニ應用セシコトヲ試ミタル人ニ乏シ近來歐米各國トノ交通開クルニ至リテ斯學漸ク盛ナリト雖モ未ダ諸國ト頡頏スルコト能ハズ夫レ理科ハ國歩ヲ進メ國力ヲ富マスノ大本ニシテ農ハ之ニ由リテ培植ノ法ヲ知リ工ハ之ニ由リテ製造ノ術ヲ悟リ商ハ之ニ由リテ



運送通信ノ便ヲ得兵ハ之ニ由リテ萬邦ニ雄視  
スルコトヲ得ルナリ然レバ則チ理科ノ關スル  
所實ニ大ナリト謂フベシ豈之ヲ忽ニスルコト  
ヲ得ンヤ

物體ヲ大別シテ天然物人造物ノ二トス天然物  
ト人造物トノ異ナル所ハ特ニ人工ヲ施サザル  
ト人工ヲ施シタルトニ在ルノミ理科ハ其天然  
物ノ性質ト天然現象ノ變化トヲ講究シテ之ヲ  
人事ニ應用センコトヲカムル學ナリ

第二章

天然ノ三界

動物界植物界礦物界

天然物ト人造物トノ區別ハ既ニ前章ニ於テ之  
ヲ述べタレバ則チ鳥獸蟲魚草木岩石土水等ハ  
皆天然物タルコトヲ知ラン然レドモ今一步ヲ  
進メテ之ヲ考フルニ鳥獸蟲魚草木等ハ生活ヲ  
有スレドモ岩石土水ノ類ハ生活ヲ有セズ因リ  
テ再ビ天然物ヲ別チテ二類トナス

第一ハ生活ヲ有スル物ニシテ之ヲ有生物ト  
云ヒ

第二ハ生活無キ物ニシテ之ヲ無生物ト云フ

右ノ無生物ニ屬スルモノハ各種ノ金石及ビ土水等ノ諸礦物ニシテ大ニ相異ナル所ナキガ如シト雖モ有生物ニ至リテハ仍ホ仔細ニ觀察比較スルトキハ蝶ハ花ニ舞フコトヲ得レドモ花ハ自ラ動クコト能ハズ鳥ハ自ラ飛ビテ此樹ヨリ彼樹ニ移ルコトヲ得レドモ樹ハ自ラ動キテ此處ヨリ彼處ニ移ルコト能ハズ又蝶ト鳥トハ之ヲ毆打スレバ痛ヲ感ズベケレドモ花ト樹トハ之ヲ摧伐スルモ其痛ヲ感ズルコトナシ其他凡百ノ鳥獸蟲魚ハ皆感覺ヲ有シ且ツ自ラ運動スルコトヲ得レドモ草木花卉ニ至リテハ感覺ナク且ツ自ラ運動スルコト能ハズ因リテ又更ニ有生物ヲ別チテ二類トナス

第一 感覺ヲ有シ且ツ自ラ運動シ得ル物

第二 感覺ヲ有セズ且ツ自ラ運動スルコト

能ハザル物

感覺ヲ有シテ自ラ運動シ得ル有生物ハ之ヲ動物ト云ヒ感覺ヲ有セズシテ自ラ運動シ能ハザル有生物ハ之ヲ植物ト云フ鳥獸蟲魚等ハ皆動物ニシテ草木花卉ハ皆植物ナリ

故ニ茲ニ天然物ヲ別ツコト左表ノ如シ

天然物

- 有生物
  - 動物
  - 植物
- 無生物
  - 礦物

動物ヲ總括シテ動物界ト云ヒ、植物ヲ總括シテ植物界ト云ヒ、礦物ヲ總括シテ礦物界ト云ス。天然物ヲ別テ三種トナス、動物植物礦物是レナリ、動物ト植物トハ生活ヲ有スレドモ、礦物ハ之ヲ有セズ、動物ト植物ノ異ナル所ハ其感覺ヲ有スルト有セザルト、自ラ運動シ得ルト得ザルトニアリ

鑛物篇

第三章

固體 液體 氣體

結晶

金屬非金屬ノ別

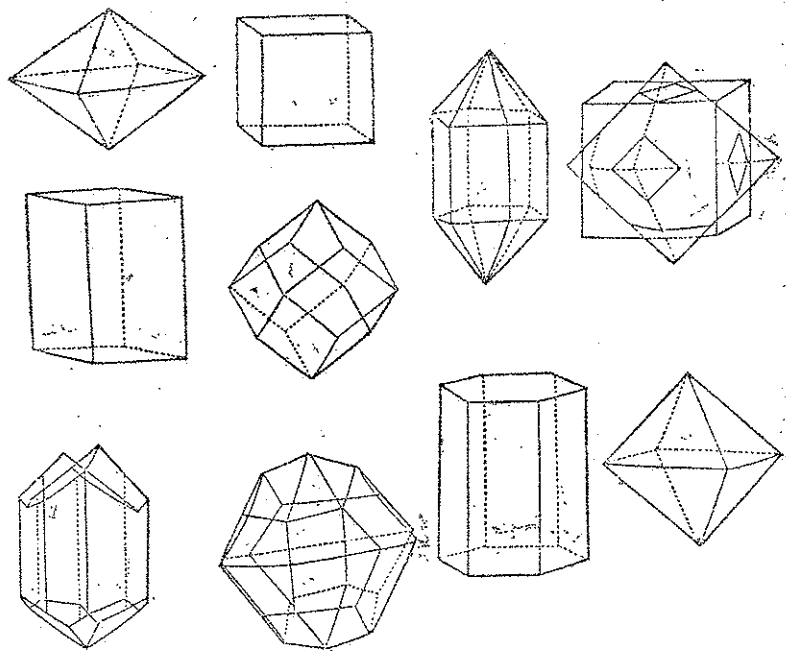
鑛物ハ即チ無生物ニシテ、其動物及ビ植物ニ異ナル所ハ既ニ上ニ云ヘルガ如シ、而シテ各種ノ金石土水等ハ皆鑛物界ニ屬スルモノナリ、此等ノ諸物中其最モ必要ナルモノハ水ナリ、水ハ雨雪トナリテ天ヨリ降り、泉トナリテ地ヨリ湧キ、流レテ河川トナリ、瀦シテ湖海トナルノミナラズ、又井ト爲リテハ、吾人ノ日常廚下ニ用フ

ル所ノ水ヲ給ス夫レ地球表面ノ凡ソ四分ノ三  
 ハ海ヨリ成リ、四分ノ一ハ陸ヨリ成ル、而シテ此  
 陸ヌラ之ヲ掘レバ、何レノ處ヲ論ゼズ、直ニ水ノ  
 湧キ出ヅルヲ見レバ、以テ其量ノ莫大ナルコト  
 ヲ知ルベク、又動植物ハ一日モ水ナケレバ、生活  
 スル能ハザルコトヲ想ヘバ、水ノ功用極メテ大  
 ナルコトヲ知ルベシ、水ハ物ヲ洗フニ用ヒ、物ヲ  
 溶スニ用ヒ、物ヲ煮ルニ用フルノミナラズ、其他  
 酒酢醬油等ノ飲料ヲ作ル如キ、其用勝ゲテ言フ  
 ベカラズ、

水ハ更ニ之ヲ冷セバ氷トナリ、此水ヲ温ムレバ  
 舊ノ水ニ復リ、又水ヲ土瓶ナドニ入レテ、之ヲ熱  
 スレバ蒸氣トナリテ、其口ヨリ迸出スル如キハ  
 既ニ諸子ノ熟知スル所ナリ、  
 凡ソ氷ノ如ク固キ物ヲ稱シテ固體ト云ヒ、水ノ  
 如ク流動シ易キ物ヲ液體ト云ヒ、蒸氣ノ如ク擴  
 散シ易キモノヲ氣體ト云フ、水ハ常溫ニ於テハ  
 素ヨリ液體トナルモ、之ヲ冷セバ固體トナリ、之  
 ヲ熱スレバ氣體トナル、總テ物體ハ必ズ此三體  
 ノ一二居ルモノニシテ、其他體ニ變ズルハ大抵

之ヲ熱シ若クハ之ヲ冷スニ因リテ然ルナリ例  
 ヘバ金銀銅鐵鉛等ノ如キモ之ヲ熱スルコト甚  
 シケレバ竟ニ鎔解シテ液體トナスコトヲ得ベ  
 シ

諸子ノ知レル鑛物中常溫ニ在リテ氣體ニ屬ス  
 ルモノハ空氣ニシテ液體ニ屬スルモノハ水水  
 銀石炭油等ナリ固體ニ屬スルモノハ最モ多ク  
 以上ノ數種ヲ除クノ外大抵ノ鑛物皆之ニ屬ス  
 固體ニ屬スル鑛物中一定ノ法ニ從ヒテ定規ノ  
 形象ヲ呈スルモノアリ



定規ノ形象ヲ呈スルモノ  
 ノヲ結晶體ト云ヒ定規  
 ノ形象ヲ有セザルモノ  
 ノ無形體ト云フ今明礬  
 又ハ曹達ノ小塊ヲ取リ  
 之ヲ熱湯ニ溶解セシメ  
 テ放冷スレバ數多ノ小  
 體器ノ内面ニ附著スル  
 ヲ見ルベシ是レ即チ其  
 結晶ナリ水精其他ノ鑛

石ノ美麗ナル結晶形ヲ呈スルモ亦此レニ類セ  
ル法ニ依リテ生ゼシナリ

凡ソ結晶ハ物質ノ異ナルニ從ヒ其形種々ナリ  
ト雖モ大略前圖ニ示ス如キモノニシテ皆一定  
ノ形象ヲ有セザルナシ然レドモ斯ノ如ク單一  
ナルモノハ甚ダ稀ナリ是レ其生成ノ際之ヲ攪  
擾スルモノアルカ若クハ數多ノ結晶相並列疊  
積シテ生ズレバナリ

鑛物ノ種類甚ダ多シト雖モ大別シテ金屬非金  
屬ノ二トナスヲ得ベシ即チ金屬ニ屬スルモノ

ハ金銀銅鐵鉛等ニシテ非金屬ニ屬スルモノハ  
通常ノ砂石土灰等ナリ

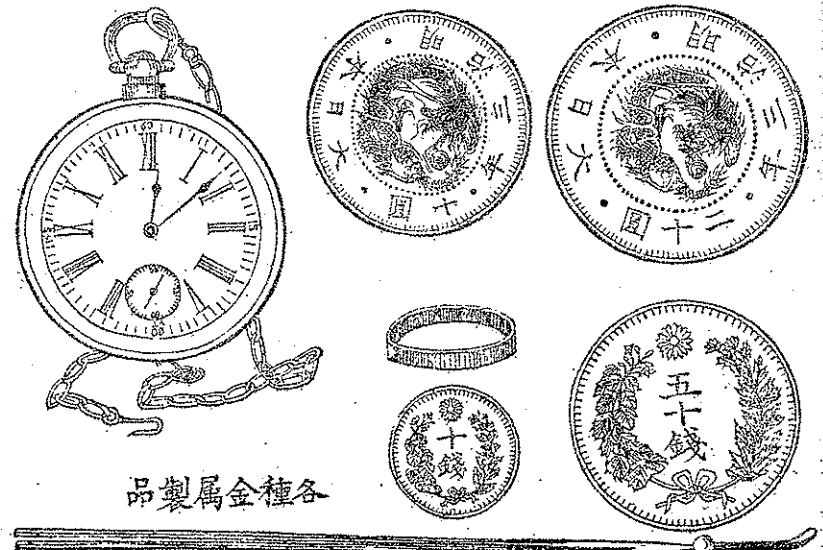
物體ハ必ズ固體液體氣體ノ一二居リ固體ニ屬  
スル物體中定規ノ形象ヲ呈スルモノヲ結晶体  
ト云ヒ然ラザルモノヲ無形體ト云フ凡ソ鑛物  
ハ之ヲ大別シテ金屬非金屬ノ二類トナス

### 第四章 有用ノ金屬

金屬ハ通常天然物トシテ鑛物學ノ範圍ニ於テ  
其性状等ヲ論ズレドモ天然純粹ノ金屬ハ甚ダ  
稀ナリ鐵亞鉛等ノ金屬殊ニ真鍮洋銀等各種ノ

合金ハ大抵皆人工ヲ施シテ得タルモノナリ、  
 常用金屬中最モ貴重ナルモノハ黄金ナリ、  
 黄金ハ又單ニ金トモ云フ、其色鮮黄ニシテ、其質  
 柔軟ナリ、或ハ貨幣ヲ造リ、或ハ時計簪指環等ヲ  
 製シ、且ツ鍍金嵌金等ニ用フベシ、殊ニ鍍展シテ  
 箔トナシ、抽引シテ線トナスベキノ性ハ、大ニ他  
 ノ金屬ニ優レルヲ以テ、金箔金線金粉トナシテ  
 其應用極メテ廣シ、本邦ニテ產地ノ主タルモノ  
 ハ、佐渡ノ相川、但馬ノ生野等ナリ、  
 銀ハ其色白クシテ、其質黄金ヨリモ較堅ク、其鍍

展シテ箔トナシ、抽引シテ  
 線トナスベキノ性、亦之ニ  
 亞グ、但シ其産出頗ル多キ  
 ヲ以テ、黄金ニ比スレバ、價  
 値甚ダ低シ、銀モ亦貨幣ト  
 ナシ、時計簪指環等ヲ製ス  
 ルニ用ス、而シテ但馬ノ生  
 野、羽後ノ院内、岩代ノ半田  
 等ハ其産地ノ著名ナルモ  
 ノナリ、



品製属金種各



金屬中實用ノ最モ大ナルハ鐵ニ若クモノナカ  
ルベシ

鐵ハ其本色ハ灰白ニシテ光輝ヲ有スレドモ永  
ク空氣中ニ暴露スレバ漸次ニ鏽蝕シテ黒褐色  
ニ變ズルヲ以テ俗ニ之ヲ黒金ト稱ス諸子新ニ  
磨ケル小刀ト舊釘トヲ比較セバ軟ク之ヲ了知  
スベシ

製鐵ニ三種アリ

第一 鑄鐵ハ其質脆クシテ鏈展スベカラズ  
鍋釜鐵瓶等ハ皆此鐵ニテ造レルナリ

第二 鍛鐵ハ三種ノ中ニテ最モ柔軟ナルガ  
故ニ抽引シテ線トナスベシ殊ニ其ニ片ヲ紅  
熾シテ之ヲ鍛打スレバ合シテ一片トナル如  
キハ其特性ナリ鋤鉄鐵釘等ハ皆此鐵ニテ造  
レルナリ

第三 鋼鐵ハ其性鑄鐵ト鍛鐵トノ中間ニ在  
リテ彈力頗ル強シ劍戟力刃等渾テ大小ノ利  
器ヲ製スルニ宜シク又ペン<sub>鋼</sub>セ<sub>ン</sub>マ<sub>イ</sub>條<sub>等</sub>  
ヲ作ルニ宜シ殊ニ近來ハ之ヲ以テ鐵軌車軸  
及<sub>ト</sub>汽罐ノ鐵板等ヲ作ル

本邦産鐵ノ鑛山ニ乏シカラザレドモ其量少ク  
 シテ日常ノ用ニ供スルニ足ラズ大抵ハ給ヲ外  
 國ニ仰ゲリ但シ近時陸中金石ニ於テ製鐵ノ業  
 ヲ興セシモ永遠ノ望ナキニヤ中途ニシテ廢止  
 セリ

銅ハ其色褐赤ニシテ其質鐵ニ比スレバ柔軟ナ  
 リ故ニ鋸展シ且ツ抽引スベシ乃チ亦貨幣ヲ鑄  
 器具ヲ製シ又薄板トナシテ家屋船艦ヲ覆ヒ殊  
 ニ銅版ヲ製スルニ適ス其他電信線及ビ綱索等  
 ヲ製スベキヲ以テ其應用ノ廣キコト鐵ニ亞ク

羽後ノ阿仁陸中ノ尾去澤下野ノ足尾伊豫ノ別  
 子等ヲ最モ著名ナル産地トス凡ソ銅ノ純良ナ  
 ルハ本邦ノ産ヲ以テ世界第一ト稱ス凡テ銅ノ  
 銹ハ綠色ニシテ劇毒アリ彼ノ銅製ノ食器ニ白  
 鐵ヲ塗被スルハ其銹ヲ防グガ爲メナリ  
 水銀ハ液體ノ金屬ニシテ其色銀ニ似タリ主ト  
 シテ寒暖計晴雨計ニ用ヒ又錫ニ和シテ玻璃鏡  
 ノ背ニ塗り其他諸般ノ技術冶金製藥等ニ用フ  
 ルコト頗ル多シ

鉛ハ其色青白其質柔軟ニシテ其價モ亦頗ル低

廉ナリ、多ク彈丸又ハ垂準ニ用ヒ、又導水管ヲ作  
ル等、其用途頗ル廣シ、

亞鉛ハ其色青白ニシテ、空氣中ニ暴露スレバ、其  
面忽チ銹翳シテ光輝ヲ失フ、其價低キヲ以テ、屋  
蓋、雨水管、水桶等ヲ作ルニ便ニシテ、其他效用頗  
ル多シ、

錫ハ鉛ニ似タル金屬ニシテ、其鐵葉ノ面ニ塗被  
シタルモノハ、アブリキ鐵葉ト稱シ、多ク茶器等ヲ製  
スルニ用ス、

二種以上ノ金屬ヲ熔シテ和合シタルモノヲ合  
金ト云フ、合金中其用ノ多キモノハ、真鍮、唐銅、洋  
銀、アルミニ等ナリ、

真鍮ハ一二黃銅ト云フ、銅ニ亞鉛ヲ和シテ作り  
タルモノニシテ、其質純銅ヨリモ較堅ク、黃金色  
ヲ呈シテ、容易ニ銹ヲ生ゼズ、且ツ鋸展、抽引ノ性  
ニ富ムヲ以テ、烟管、錠、鍵等各種ノ器具ヲ作ルベ  
シ、

唐銅ハ一二青銅ト云フ、銅ト錫トヲ和合シタル  
モノナリ、其色黃ニ黝ヲ帶ビテ、彈力頗ル強シ、故  
ニ大砲、燈籠、花瓶、火鉢等ヲ鑄造スルニ用ヒ、梵鐘

好

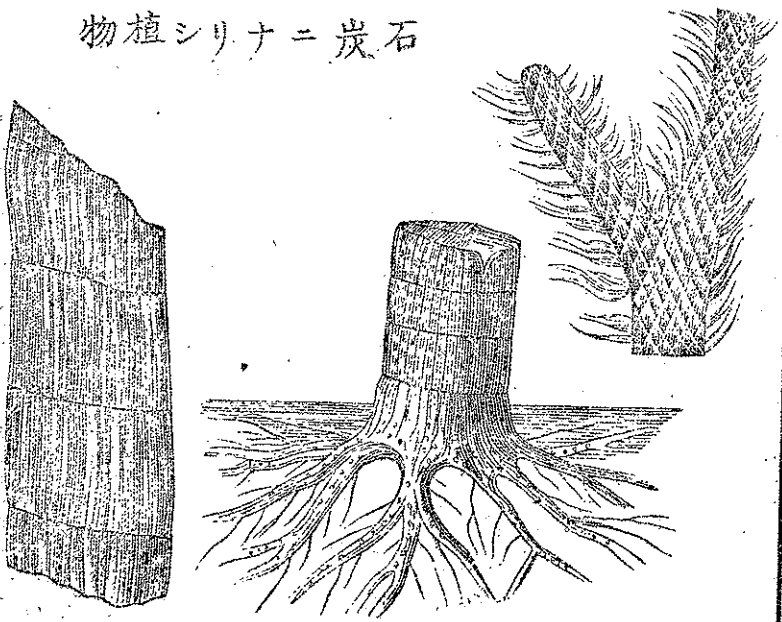
粧鏡ノ如キモ亦此類ノ合金ニ係レルモノ多シ  
 洋銀ハ銅ト亜鉛トニツケルノ合金ニシテ全ク  
 銀色ヲ呈スレドモ少シモ銀ヲ含ムニアラズ往  
 ヲ價銀トシテ之ヲ用ヒ其應用畧銀ニ比シ  
 アルニハ銅トアルミニウムト稱スル金屬ヲ混  
 和シタルモノニシテ其色澤黃金ニ類ス故ニ又  
 價金トシテ用ス  
 此他四分一紫銅白鐵等ノ合金又頗ル多シ  
 常用金屬中最モ貴重ナルモノハ金ニシテ最モ  
 實用ノ多キハ鐵ナリ金銀ハ貴重ノ物品ヲ造ル

ニ用ヒ銅鐵ハ日用ノ器具ヲ作ルニ用ス金銀銅  
 鐵鉛錫亞鉛ハ皆固體ナレドモ水銀ハ液體ナリ  
 其他眞鍮唐銅洋銀アルニハ皆銅ノ合金ナリ  
 第五章 有要ナル非金屬  
 諸子ハ有要ナル非金屬ニ就キテモ亦其性質效  
 用ヲ知ラズンバアル可カラズ故ニ今其大略ヲ  
 擧ゲテ諸子ニ示サン  
 地中ヨリ掘リ出ス礦物數多アリ金剛石石墨石  
 炭泥炭石炭油琥珀硫黃大理石花崗石等是レナ  
 リ就中最モ貴重ナルハ金剛石ニシテ最モ實用

ノ多キハ石炭ナリ、  
 金剛石ハ寶石中最モ貴重ナルモノニシテ、其質  
 ノ硬キコト萬物ニ冠タリ而シテ其琢磨シタル  
 モノハ光彩ノ粲然タルコト得テ名状ス可カラ  
 ズ而シテ其素ヲ尋ヌレバ通常ノ炭ト同一ノ物  
 ヨリ成レリ譬ヘバ氷ト雪トハ其外見大ニ異ナ  
 レドモ、兩ナガラ水ヨリ成レルガ如シ、  
 炭ト同一ノ物ヨリ成レル礦物中又石墨アリ、石  
 墨ハ黑色柔軟ナル礦物ニシテ鉛筆ノ心ヲ製ス  
 ルニ用ス、

石炭ハ太古ノ植物ノ地中ニ埋リテ炭化シタル  
 モノニシテ、其燃ユベキ  
 性ハ尚ホ之ヲ存セリ、汽  
 車汽船其他蒸氣機關ノ  
 燃料ニ供シ、又石炭瓦斯  
 ヲ製スベシ、世界中到ル  
 處ニ之ヲ産ス、本邦ニテ  
 ハ肥前ノ高島筑後ノ三  
 池、北海道ノ幌内等ハ最  
 モ有名ノ産地ナリ、植物

石炭ニナリシ植物

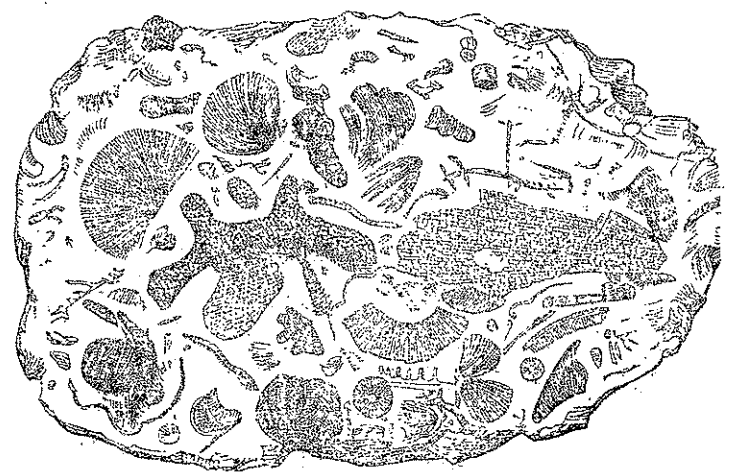


ノ泥土中ニ埋リテ半バ炭化シタルモノハ之ヲ  
泥炭ト云フ、泥炭ハ今尚ホ湖沼等ノ底ニ生ズル  
モノアリ

石炭油ハ液體ノ礦物ニシテ一種ノ臭氣アリ、通  
常井ヲ穿テ之ヲ汲ミ取り、點燈ノ用ニ供ス、本  
邦ニテハ越後信濃遠江等ニ多ク之ヲ産ス、然レ  
ドモ吾人ノ日常用フル所ノモノハ大抵外國ノ  
産ニ係レリ、  
琥珀ハ樹脂ノ久シク地中ニ埋リテ變ジタルモノ  
ニシテ以テ裝飾ノ具トナスベシ之ヲ火中ニ

投ズレバ、烟ヲ發シテ佳香ヲ放ツ、

各物動遺ノ體ヲ顯ルセ石灰石



硫黃ハ淡黄色ノ礦物ナリ、其  
質脆クシテ碎ケ易シ、性甚ダ  
燃工易キヲ以テ火藥ヲ製シ  
附木ニ著クルニ用ス、多ク火  
山ノ近傍ニ産ス、  
石炭泥炭琥珀等ハ太古ノ植  
物ノ變化シタルモノナリ、茲  
ニ又動物ノ遺骸ヨリ成レル  
所ノ礦物アリ、大理石石灰石

白堊等是レナリ、諸子此等ノ礦物ノ粉末ヲ顯微鏡ニテ視ルトキハ種々ノ介殼、其中ニ存スルヲ見シ、

大理石ハ其破面細粒ノ集レルガ如クニシテ、通常白色ナレドモ間、赤色、黒色、褐色等ノモノアリ、其質柔軟細密ニシテ、甚ダ美ナリ、處々ニ産スレドモ美濃常陸ノ産ヲ最良トス、以テ家屋橋梁ノ建築材トナシ、燈籠水盤其他ノ器具ヲ製スルニ用ス、

石灰石ハ大理石ト同一ノ物ヨリ成リテ、諸國皆之ヲ産スト、雖モ、近江美濃備後等最モ多ク之ヲ出ス、之ヲ燒キテ石灰ヲ製スベシ、  
白堊ハ白色ノ粉末ナリ、之ヲ固メテ白墨トナスベシ、

石英ハ其品類多シ、結晶シテ透明ナルモノヲ水晶ト云ヒ、無定形ニシテ光澤蠟ノ如キモノヲ玉髓ト云ヒ、玉髓ノ一種赤色ナルヲ瑪瑙ト云フ、或ハ裝飾トナシ、或ハ器具ヲ作り、又其砂ヲ以テ硝子煉化石等ヲ製造シ、粗質ノモノハ鐵片ト摩擦シテ、火ヲ發スルニ用フベシ、

石英長石雲母ノ三石相集リテ花崗石ヲ成ス此  
 岩石ハ白色ニシテ黑色ノ斑點  
 ヲ混ヘ堅硬ニシテ宮殿家屋橋  
 梁石垣鳥居石碑等ノ建築ニ用  
 ヒテ最モ久シキニ耐ス本邦諸  
 國大抵之ヲ産セザル所ナシト  
 雖モ攝津ノ産ハ古來最モ有名  
 ナリ



花崗石 鐵面石 英公白色  
 長尺灰色 雲母ハ黑色ヲ呈ス

陶土ハ本來白色ナレドモ又黃色赤色青色等ヲ  
 帶ブルモノアリ多クハ花崗石ノ巖層中ニ在リ

彼ノ陶器ハ之ニ水ヲ和シテ柔軟ニシ種々ノ形  
 ヲ造リ乾固シテ後高熱ヲ加ヘタルモノナリ陶  
 器ハ本邦ノ名産ニシテ加賀ノ九谷尾張ノ瀬戸  
 肥前ノ有田伊勢ノ萬古等ハ古來有名ナル産地  
 ナリ又粘土ハ各種ノ土器及ビ瓦等ヲ製スベシ  
 食鹽ハ通俗單ニ鹽ト呼ブ其色白ク其質脆クシ  
 テ性水ニ溶解シ易シ海水中多ク之ヲ含メルヲ  
 以テ海水ヲ煮テ其水分ヲ蒸發セシムルトキハ  
 即チ食鹽ヲ得ベシ本邦ノ食鹽ハ皆斯ノ如クシ  
 テ製出セルモノニテ沿海ノ諸國大抵皆之ヲ産



新撰理科書  
 スレドモ播磨ノ赤穂最モ名アリ、食鹽ノ人身ニ  
 必要ニシテ、食物ノ調味ニ欠ク可カラザルコト  
 ハ、諸子ノ知ル所ナレドモ、又之ヲ以テ硝子石鹼  
 等ノ原料ヲ製スルコトアリ、  
 非金屬中有用ノ礦物多シ石炭ハ燃料ニ供シ又  
 瓦斯ヲ製シ石炭油ハ點燈ノ用ニ供シ大理石花  
 崗石ハ建築ノ用ニ供シ陶土ハ陶器ヲ製シ食鹽  
 ハ食物ノ調味ニ供ス

社 会 科

新撰理科書 自卷一ノ上 至卷四ノ下 全八册

明治二十年四月廿七日版權免許

同 年五月 出版

明治二十年十一月八日訂正再版御届（自卷一ノ上 至卷二ノ下）

同 廿一年二月廿五日印刷再版（自卷三ノ上 至卷四ノ下）

編纂人 東京府士族 理學士 高島勝次郎

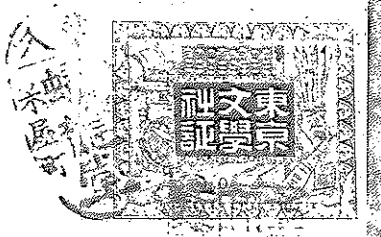
東京小石川區久堅町三十八番地 澁賀縣士族

發行兼印刷人 小林義則

東京日本橋區本町四丁目十六番地

文 學 社

東京日本橋區本町四丁目十六番地



發 兌



明治21  
63

[Blank white label]